

次は、フェムテック、フェムケアの推進について質問します。

配付資料を御覧ください。

フェムテックは女性、フィーメールと、技術、テクノロジーを組み合わせた言葉で、女性特有の健康課題をテクノロジーで解決する製品、サービスを指します。

具体的には、月経周期を管理するアプリや吸水ショーツ、月経カップなどの妊活や生理に関する製品、さらには、デリケートゾーンのウェルネスに寄与する化粧品やサプリメント、セクシャルウェルネスを応援するプレジャートイ、医療機器など、多岐にわたります。これはSDGsの目標とも関連し、フェムテックの世界市場は現在約6兆円、2030年には14兆5,000億円に達すると予測されています。日本市場は約750億円と言われていますが、特に、地方ではフェムテックやフェムケアに関する取組がまだ限られており、男性からすると触れにくいイメージやクローズな空気感も重なり、この市場規模と地方でのフェムテック、フェムケアに取り組む個人事業主、女性起業家の活躍の場が比例していないのが現状で、地域全体での情報提供や支援体制はまだ十分とは言えず、余計にハードルが高い現実があります。

そうした中、今年3月に、新居浜市で四国初の本格的フェムテックイベント、フェムテックDay in 新居浜が開催されました。

イベントでは、生理教室、生理痛体験、妊婦体験などを通じて、男性も女性の身体的な感覚を疑似体験できるプログラムが組まれました。また、元バレーボール日本代表、栗原恵さんを迎えたトークセッションも行われ、地域で活動する女性起業家や市職員とともに、フェムテック推進の意義を共有しました。

大型商業施設内で行われたこのイベントでは、日常では語りづらい生理や子宮や膣といったキーワードをあえてオープンにし、知って、体験して、愛そうをテーマに、女性の健康課題への理解促進とタブー解消の大きな一歩となりました。

また、男性が実際に体験することで、理解と共感が進み、フェムテック推進には体感が重要であると再認識されました。

そこで、質問いたします。

このイベントには国会議員で構成されているフェムテック振興議員連盟会長、野田聖子衆議院議員からの応援メッセージも届き、市長にも御来場いただきました。

市長の生理痛体験を踏まえた御感想をお聞かせください。

さらに、この取組を受けて、子宮の日である4月9日に一般社団法人四国フェムテック協会の設立記者会見がワクリエ新居浜で行われました。こちらの協会は四国エリアを対象に、本部は新居浜市に置かれ、従来のフェミニズム的なアプローチではなく、健康寿命や女性活躍という視点に加えて、フェムテックやフェムケアに取り組む女性起業家への活躍伴走型支援をはじめとした、地域に根差した経済視点での受皿として、子供たちの性教育推進や、首都圏企業との連携、さらには地方自治体との連携推進や政策提言なども計画されており、女性の健康と活躍を経済成長のエンジンとする、新たな枠組みづくりに取り組まれるとのことでした。

既に、総務省からは愛媛県内の消

防局幹部向けの生理痛体験研修の事業予算の内示もいただいております、子供から高齢者までのウェルネス促進やウェルビーイングの実現に向けた啓発活動、男女ともに健康に対するリテラシー向上に向けた企業研修など、健康経営の推進に向けた連動も期待しています。

そこで、質問します。

宇都宮市が全国に先駆け、行政が主導となって取り組んだことで注目を集めているフェムテックの推進ですが、配付資料のとおり、少子化、医療費削減、性教育、企業誘致及び健康経営、女性活躍、市役所の職場改善など、行政の多分野にまたがる課題であり、部局横断的な理解と連携が求められます。それぞれの分野でのフェムテック推進に対する本市のお考えと方向性をお聞かせください。特に男性幹部職員には、まず体験を通して理解を深めることが重要であり、生理痛体験研修の導入は、女性への後押しの一歩となると同時に、新居浜市の姿勢を国内外に発信できるチャンスであると考えますが、御所見をお聞かせください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） フェムテック、フェムケアの推進について、お答えいたします。

生理痛体験研修についてでございます。

まず、私の生理痛体験を踏まえた感想について、お答えいたします。

近年、少子高齢化や人口減少の進行により、仕事だけではなく、家事、育児、介護や地域活動など、社会全般における女性のさらなる活躍が期待されております。

2016年4月には女性活躍推進法が施行され、女性が様々な健康課題と付き合いながらも、ウェルビーイングを実感できる体制整備を推進することが社会全体の課題であると認識しております。

本年3月には四国初のフェムテックイベント、フェムテックDay in 新居浜が開催され、私も出席し、生理痛体験もさせていただきましたが、女性に対する社会的配慮や環境整備の必要性を改めて認識させていただきました。

次に、多分野からのフェムテック推進に対する考え方と方向性についてでございます。

まず、フェムテックの推進により、女性特有の悩みを解消し、女性が個々のライフステージにおいて持てる力を最大限に生かすための支援体制の構築や、働きやすい環境づくりが進み、少子化対策の面においても、新たな視点での対応策となる可能性があるとともに、女性活躍や企業の健康経営、市役所の職場改善にもつながる取組であると感じております。

また、女性特有のライフステージごとの体調変化や健康の悩みをサポートすることにより、医療費の削減や児童生徒に対する性教育にも有効な取組であると考えております。

加えて、企業誘致の観点では、フェムテック産業関連の新たな立地、設備投資等が行われた場合、地域経済の活性化にも期待できると考えております。

このように、フェムテックやフェムケアを含む取組によって、女性特有の健康問題の解決や不快感、不安感の解消のみならず、多岐にわたる効果が期待されますことから、今後、市といたしましても、必要な支

援や情報提供を行いながら、誰もが自分らしく活躍できる地域社会の実現を目指してまいります。

○議長（田窪秀道） 久枝福祉部長。

○福祉部長（久枝庄三）（登壇）

男性幹部職員への生理痛体験研修の導入について、お答えいたします。

月経に伴う疼痛や不快感を理解する上で、体験型研修は有効であると認識いたしておりますが、研修用資機材の使用には一定の費用を要することから、まずは管理職向けの研修において、女性特有の健康課題に関する学習を取り入れ、理解の促進を図ってまいります。

○議長（田窪秀道） 再質問はありますか。白川誉議員。

○1番（白川誉）（登壇） ありがとうございます。

費用がかかるということなんですけど、先ほどの質問も一緒なんですけど、例えば、今かかる経費を削減して、そういったものをこういった生理痛体験研修に充てるみたいな、そんな流れにしていくことで、生きたお金になるといいますか、そこをすることで、職場改善とかにもつながっていくと思いますので、その辺りも含めて御検討いただきたいなと思います。

私は女性が我慢することが当たり前というこれまでを、自分のことを大切にすることが当たり前の社会へ変えていくためにも、社会全体で女性の健康課題に向き合い、理解を深めていくことが、個人個人を尊重するウェルビーイングな社会を実現することにつながると信じています。確かに、男性からすると触れにくい空気があるのも事実ですが、だからこそ、健康寿命や女性活躍という視点に加えて、地方の先駆けとして、経済分野の切り口を入れることで、大きな可能性があると思います。

この地方から、そして、私たち男性から変革を起こしていく流れを行政からも後押ししていただくことを要望して、質問を終わります。

ありがとうございました。